



© Kiyonori Hasegawa



© Kiyonori Hasegawa

愛と冒険の 夢物語

家族みんなで出かけよう！

子どもも飽きずに
楽しめる演出満載

今回上演する『ドン・キホーテの夢』は、古典バレエの中でも抜群の人気を誇る『ドン・キホーテ』（スペインを舞台にした愛と冒険の物語）を東京バレエ団がアレンジして、小

な子どもでも楽しく鑑賞できるように特別に制作した作品。

ボリシヨイ劇場の元芸術総監督ウラジミール・ウシーリエフが自ら『ドン・キホーテ』を再演出し、見どころをぎゅっと圧縮、コンパクトにまとめています。バレエは通常、マイムで会話するので言葉を発しません。が、本作品では登場人物のサンチョ・パンサが観客と会話をしたり、解説をしてくれたりと、子どもたちが飽きることなく楽しめる工夫がいっぱい。ダンサーたちも、わかりやすく伝わるように全身の神経に気を使い、クリアな演技で観客を沸かせます。

**スピード感あふれる
見せ場の連続**

本作品へ主役での出演経験を持ち、指導も行う柄本弾さんは「何度も公演しています。が、いつも笑い声や大きな拍手が起る作品。お子さんたちの素直な反応や拍手に、ダ



東京バレエ団 子どものためのバレエ 『ドン・キホーテの夢』鳥取公演

日本最高峰のバレエ団・東京バレエ団が、この夏、鳥取の子どもたちに贈る愛と冒険の物語『ドン・キホーテの夢』。たくさんの見せ場を盛り込んだ解説付きの舞台は、初めてのバレエ鑑賞にぴったりです。東京バレエ団プリンシパル(最高位ダンサー)で指導も手がける柄本弾さんが、その見どころや魅力を語ります！



Illustration: Satoru Makimura

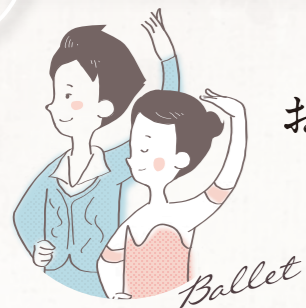


© Koujiro Yoshikawa

「ンサーもやる気になります」と、会場の盛り上がり語ります。それもそのはず、「子どもたちのためのバレエ」と侮るなかれ、スピード感は『ドン・キホーテ』以上です。「見せ場が次々とあり、ダンサーにとっては本作品のほうがハード。中距離走を全力疾走しているような感覚です」と、超一流のダンサーたちが全速力の舞台を繰り広げ、子どもはもちろん、大人たちからも高い満足度を得ています。

踊りの最大の見せ場は、何と言ってもクライマックスの町娘キトリと恋人バジルの結婚式。主役2人の「グラン・パ・ド・ドゥ（※）」は、超絶技巧の応酬であり、リフトや跳躍、回転の連続は圧巻です。「特にワシリエフ版はテンポが速く、女性の華麗かつ完璧な足さばきや、男性の空中でのテクニクも見ものです」と柄本さん。バレエダンサーの身体能力の高さも、間近で体感できそうです。

※グラン・パ・ド・ドゥ=P.05



おしえて! バレエ

イタリアで生まれ、その後フランスで大きく花開き、ロシアで今の様なスタイルへと発展してきた長い歴史をもつ「バレエ」。台詞の代わりに音楽に合わせていろいろな気持ちを踊りや身振り(マイム)で表現することで伝え、全世界どこでも通じます。バレエをより楽しむための豆知識を紹介します。

Q1) マイムの種類っていくつあるの?

A1 マイムは言葉の代わりなので、「踊る」「誓う」「美しい」などたくさん種類があります。主なものを右記イラストで紹介します。



Q2) バレリーナはどうしてつま先で歩けるの?

A2 足先にパッドの入った「ポワント(トゥ・シューズ)」という専用の靴を履いているからです。これはひとつひとつ手作りです。バレリーナはこの靴を履いて、つま先だけで立ってバランスをとっています。ポワントを履きこなすためには、たくさんの練習はもちろん、体作りが重要です。



Q3) バレエの踊り方って決まってるの?

A3 バレエは「ポジション」という1番から5番までの足の置き方と、4つの腕の動かし方から成り立っています。この組み合わせで生まれる姿勢が始まりとなって、そこからいろいろな踊り方に発展していきます。たとえば古典バレエの一番の見どころとなる主役男女の踊りが「グラン・パド・ドゥ」で、アントレ(入場)に続き、アダージェオ(ゆるやかな音楽で2人で踊る)→ヴァリエーション(1人ずつ踊る)→コーダ(最後に2人で踊る)で構成されています。



© Kiyonori Hasegawa

© Kiyonori Hasegawa

地元バレエキッズもプロの舞台で共演

また、本作品では、地元のバレエ教室に所属する子どもたちも、キユーピッド役で出演します。「バレエは楽しいものなので、舞台上のプロのダンサーたちよりも楽しんで踊ってもらえると、僕たちもうれしいです」と、共演を楽しみにしているといいます。

ところで、柄本さんの子ども時代はというと、レッスンが大嫌いだっただとか。「でもやっぱりバレエが好きだから、もっとうまくなりたいと頑張りました。今、バレエを頑張っている子どもたちも、



東京バレエ団 プリンシパル
柄本 弾 つかもと だん

京都府出身。5歳よりバレエを始める。2008年に東京バレエ団に入団。10年1月の『ラ・シルフィード』、4月の『ザ・カフキ』で主役に抜擢され、13年よりプリンシパルとして活躍。プルメイステル版『白鳥の湖』、『ドン・キホーテ』、『ジゼル』などの古典、ベジャール作品ほか数々の作品で主役を踊り、バレエ団初演作品に金森稔『かくや姫』第1幕の道児(21年、世界初演)、クラシコ版『ロミオとジュリエット』のロミオ(22年)などがある。また近年振付指導補佐も務めている。

「好き」という気持ちを大切にしたいです」とエールを送ります。

**初めての鑑賞に最適
夢と感動を体感して**

東京バレエ団では、コロナ禍ですべての公演とレッスンがストップした時期がありました。「半年ぶりに舞台上に立つ時、かつてないほどの温かい拍手をいただきました。自分たちの存在が、お客様に感動や明日への活力を与えることを実感し、今まで以上に一つの公演を大切にしたい」と、新たな想いを胸に舞台上に臨んでいます。

クラシックバレエは、「高尚」「難しそう」とハードルが高いイメージがあるかもしれませんが、しっかりとストーリーがあるので物語を理解しやすく、また言葉がないからこそ世界中の人が楽しめます。「バレエは踊りだけでな



© Shoko Matsunami

EVENT INFORMATION



TOTTORI バレエ普及シリーズ
東京バレエ団
子どものためのバレエ
「ドン・キホーテの夢」

日時 2023年8月6日(日)
時間 開演 14:00
会場 とりぎん文化会館 梨花ホール

詳細は決まり次第、ホームページ等にて公開します。

く衣裳や装置、照明、音楽などで表現される総合芸術。生の舞台だからこそ同じ作品、キャスト、会場であっても、二度と同じ公演はありません」と、魅力を語ります。

特に本作品は、小さな子どもから楽しめるバレエデビューにうってつけの作品。「多くの方に気軽に見に来ていただき、これをきっかけに、他の作品にも興味を持ってもらい、バレエ人口が増えるとうれしいです」と柄本さん。

誰もが楽しめるドキドキワクワクの詰まった愛と冒険の物語へ、いざ!

※今公演に柄本さんは出演しません。